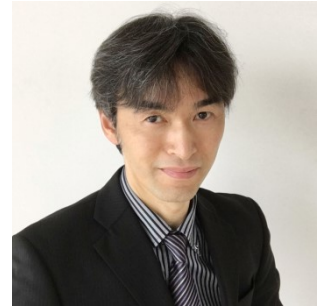


ものづくり人材育成やまがた便り

デザイン思考を活用した創造的なチームの作り方

東北芸術工科大学
プロダクトデザイン学科教授 柚木 泰彦



探究型学習へのデザイン思考の活用

私が所属するプロダクトデザイン学科では、生活シーンで使われる様々なモノ（家電製品、生活用品など）をデザインする「ものづくり人材」を育成しています。今日の社会の変化に伴い、そのデザイン領域は単にモノだけではなく、モノを取り巻くコトへと広がりを見せています。UX (user experience) デザインと呼ばれる、ユーザの経験価値を高めるためのデザインがその代表格です。

そのような中、私自身の研究活動の軸足は、UXデザインの考え方も取り入れながら、中学校・高等学校での「探究型学習」を中心とした教育連携にシフトしつつあります。次代を担う10代の若者達に、創造的に学ぶ姿勢を身につけてほしいとの願いから行っている活動と言えます。

2016年春に山形県立東桜学館中学校・高等学校が開校するにあたり、私を含む東北芸術工科大学の研究者チームが「総合的な学習の時間」のカリキュラム検討に参画するとともに、幾度か授業を行ってきました。

なぜ、デザイン系の大学が中学校の「総合的な学習の時間」に関わるのだろうか？と疑問

に思う方もいらっしゃるかもしれません。現在、小・中・高等学校では、「主体的、対話的で深い学び」の本格的な導入が求められています。そして、「総合的な学習の時間」を中心に行われる探究型学習と深く関わりのある考え方として、私達は「デザイン思考」に注目しています。

デザインというと、美しい色の組み合わせや装飾を考案したり、魅力的な形を創り出すことと思われがちですが、それらは狭義のデザインになります。デザインの本質的な（広義の）意味は、ある目的に向けて計画を立て、問題を解決するための思考を見える形、体験できる形にすることです。すなわち、デザインすることは問題を見つけ解決することを意味し、デザイン思考は創造的な問題解決のための思考法と言えます。

デザイン思考の代表的な発信源として、IDEOの創設者デビッド・ケリーらがスタンフォード大学に立ち上げたd.schoolがあげられます。彼らは、デザイナーとして働いている人達が無意識に行っている思考プロセスとツールを他の職能の人々も活用できるように体系化しました。

私達は、このデザイン思考を「多様な他者との協働を通して、自ら課題を見出し、創造的に解決する考え方と可視化のプロセス」と定義し、以下の5項目を「デザイン思考を活用した探究的な学び5つの活動」と称して教育連携に取り組んでいるところです。

- 1.現状理解：インタビューと観察を通して共感する。
- 2.課題発見：情報を整理して着眼点を見出す。
- 3.創造：協力し合いながらアイデアをひろげる（ブレインストーミング）。プロトタイプをつくる（アイデアの可視化）。
- 4.検証：プロトタイプからフィードバックを得る。
- 5.振り返り：アイデアを発表する。今後の課題を整理する。

創造的なチームをつくる最初の一步

現在、デザイン思考は、イノベーションや組織改革を起こす考え方として大変注目されています。社会人向けに開催されているデザイン思考の研修会には、製造業、IT企業、金融業、地方自治体など、社会の各所で働く人々が参加し、職種も営業、開発、研究など様々です。参加者の多くは、この研修で体得した考え方と手法を社内に展開する使命を胸に、研修に取り組んでいます。

ある大手IT企業では、顧客の視点に立って業務を見直すためにデザイン思考に着目しました。社内の有志が中心となり、社員向けにデザイン思考ワークショップやセミナーを定期開催するようになり、全社的にデザイン思考をファシリテーションできる人材を育成す

る取り組みへと発展しました。

正解がないと言われる時代、先を見通せない時代において、問題の核心を見出し、周囲の人々を巻き込みながら、納得できる解を見出していく姿勢が必要です。探究型学習にもデザイン思考にも求められる力として、①自ら動き出す力、②仲間と協働する力、③何が真の問題かを見出す力、④試行錯誤しながら問題を解決しようとする力があげられます。そして、創造的な仕事をするためには、上記の力を発揮するための心身の準備が必要となります。

「クリエイティブ・マインドセット」という言葉があります。デザイン思考を活用する上で最も重要なことは、クリエイティブなマインドセットをいかに持続させられるか？であると言われています。例えば、プロジェクト会議前に10分ほどの時間を確保してアイスブレイクを行うだけでも有効です。アイスブレイクとは、目的の達成に向けて、チームメンバーが積極的に関わっていけるよう働きかける技術です。プロジェクトの各局面で最適なアイスブレイクを設計、実行することにより、チームメンバーの心と体を和ませ、良質なコミュニケーションをとりやすい雰囲気を創出できます。デザイン思考を日常化させると、きっと社内に創造的に考える空気が定着していくことと思います。小さな変化が積み重なり、やがては、クリエイティブビティ溢れる企業組織に育つことでしょう。

< 柚木 泰彦教授プロフィール >

茨城県出身。筑波大学芸術研究科デザイン専攻生産デザイン分野修士課程修了。専門分野はユニバーサルデザイン、インタラクションデザイン。最近、小中高の探究型学習を中心とした教育連携によるデザイン思考活用研究に注力している。日本デザイン学会、芸術工学会会員。

企業訪問記

～ ティービーアール株式会社 ～

(ホームページアドレス <http://www.tbk-jp.com>)

八賀 利久代表取締役



このたび訪問させていただいた、ティービーアール株式会社（代表取締役 八賀 利久、従業員356名）は、1983(昭和58)年にTBKグループにおけるマザー工場としての役割を担い、鶴岡市に創立した。素型材から加工までの一貫した生産体制でモノづくりに取り組んでおり、ムダを排除したシステム思考による効率的なライン稼働を始め、お客様のニーズにお応えするフレキシブルな生産体制を整えている。「お客様に喜んで頂く商品をつくり、社会に貢献する」を経営理念に、品質においては、あらゆる努力を惜しまない。常に最新の設備・技術を導入し、製品の多様化にも応えながら、新時代のニーズに的確に対応している。また、自動車産業で培われた技術的ノウハウが他の産業製品を作る上で大きな礎となっている。

TBKグループは、大量輸送に欠かせないトラックやバスなどの大型車・中型車の安全運行に大きく貢献している。車両にとって「安全性」と「性能」という極めて基本的で重要な役割を担っており、「安全」を担うブレーキシステム、エンジン「性能」をつかさどる水ポンプ・油ポンプ、エンジンカムシャフト、シリンダーヘッド、ターボチャージャーベアリングハウジングなどがある。今後もこれらの部品を進化させ、この基幹的な分野で車両業界、建設機械業界を支えていく。

(1)会社の経営理念・品質方針・企業の責務

経営の基本理念は「お客様に喜んで頂く商品をつくり、社会に貢献する」である。小型車から大型車トラック・バス用の重要保安部品であるブレーキおよびエンジン冷却用水ポンプ・潤滑用油ポンプの専門メーカーとして、開発、生産、販売を通じて広く社会に役立つ企業を目指している。当社の製品は、環境、安全、経済性の要求度が高く、高度の技術を必要としており、「安全で、信頼性の高い製品をつくり、お客さまに提供する」を品質方針に掲げて活動している。また、社会からの信頼を確保・維持し、企業としての責務を果たすための諸施策を実施していくことで、事業の発展と経営の安定を実現し、皆様の期待にお応えして参ります。

(2)グローバル競争力の強化

世界各地のお客様が期待する品質の確保とお客様と共に歩む提案型企業への深化を目指し、社員一人一人が自分で判断して提案できる企業を目指している。

(3)グローバル人材の育成

①現場力アップに向けた教育の推進

次世代を担う社員の人材育成教育として選抜教育がある。入社10年目の現場班長代理クラスの社員の中から、将来の幹部候補生を選抜して、3か月間の研修を行う。教育内容としては、管理者として必要なマネジメント能力や改善手法など将来のリーダーとして必要な知識の習得を目指す内容となっている。製造メーカーとしての“ものづくり”の基本を理解し、かつ管理者として必要なマネジメント能力を身に付ける。

②国内外におけるグローバル人材の育成

TBKグループは、米国、中国、タイ、インドなど海外工場が多く、海外で活躍できるグローバル人材の育成と活躍が期待されている。これに伴って、TBKグループは、海外トレーニー制度を実施している。海外トレーニー制度とは、海外経験のない若い社員が、社内公募により、役員面接を経て、合格すると、3か月間から1年間の海外研修が受けられる制度である。今年、鶴岡工場からも1名が、1年間の米国研修に合格している。

(4)外部での人材育成

若手社員向ステップアップ研修、中堅社員研修、職場リーダー研修、管理者研修、女性社員キャリアアップ研修、現場リーダー資質向上研修など社員の職制と適性に応じた外部研修が受講できる。

= 若手社員へのインタビュー =

入社5年目で三川町出身の阿部 拓亮（あべひろあき）さんにお話を伺いました。

Q 入社のはじめは

最初に、ホームページなどを見て、自分が勉強したことが活かせる会社だと思ったことが一番です。会社訪問をして実感して入社しました。

Q 担当業務の内容と感じていることは

試作品としての木型を作っています。木型は部品を作る上でとても役割高いものです。出来るまでミリ単位の緻密な作業を要し、まだまだ学びの段階ですがやりがいを感じています。

Q 現在の仕事はどうですか

型の修理や改善が主な仕事です。とても考える事が多く、修行中の身です。不良対策で少しでも良品率が上がると嬉しいです。

Q これからの目標は

今後は、現在携わっている作業はもちろん、

(5)資格制度(取得支援と有資格者数)

会社が認めている技能検定については、会社負担で受験でき、取得資格によっては、給与に反映される資格と一時金が支給される資格がある。

(技能検定：1級取得者26名、2級取得者59名)

(6)採用について

2017年(高卒4名) 2018年(高卒5名 大卒1名)
工業高校からの新卒採用が厳しい状況で、地域密着型の“わくわくバスツアー”やインターンシップなどを積極的に受け入れて、採用活動を行っている。

2017 技能五輪



阿部 拓亮さん

技術を身に付けて、自分のやっている仕事の評価され、信頼される社員になりたいです。

Q 趣味はありますか

月に2回～3回ソフトテニスをやっています。一杯動くのでたくさん汗をかきますが、ストレス解消になります。

Q 最後に、大切にしている心構えは

仕事に限らず、何に於いても出来ないと思わず、どうしたら出来るかを考え、常に向上心を持って取り組むことです。

最後に、この度の取材に御協力いただきました斎藤 課長、土田 さん、インタビューさせていただいた阿部 さんありがとうございました。